

令和6年度 東京都立多摩科学技術高等学校 学校経営計画

東京都立多摩科学技術高等学校

校長 森 田 常 次

1 目指す学校

本校は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール指定校（第Ⅲ期基礎枠：令和4年度～令和8年度、重点枠：令和5年度～令和8年度）（以下、SSH指定校）に採択、東京都教育委員会から進学指導推進校（令和5年度～令和9年度）・英語教育研究推進校・高大接続事業などの指定を受けている。

〔1〕スクール・ミッション

先進的・実践的な理数教育を実施する学校として、多摩地域に多数存在する先端技術分野において優れた企業、研究機関、大学などの教育資源を最大限に活用することで、大学進学に向けた普通教科指導に加え、科学技術の指導を行うことで、未来の科学技術者の基礎を作り、世界で活躍する科学者・技術者を育成する。

〔2〕教育目標

- （1）科学技術への好奇心と探究心を育て、創造力を伸ばす。
- （2）進路実現に必要な学力を確実に育てる。
- （3）柔軟な発想力と論理的な課題解決力を育てる。
- （4）社会人としての責任感と豊かな人間性を育てる。
- （5）自らの可能性に気づかせ、未来をひらく志を育てる。

〔3〕スクールポリシー**（1）グラデュエーション・ポリシー**

- ① 生きて働く「知識・技能」の習得として、進路実現に必要な学力を育成する。
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成として、科学技術への好奇心と探究心および創造力、柔軟な発想力、論理的な課題解決力を育成する。
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養として、社会人としての責任感、豊かな人間性、未来をひらく志を育成する。

（2）カリキュラム・ポリシー

スクール・ミッション達成に向けて、次のような教育課程を編成・実施し、学習評価する。

- ① 専門教科では、実験・実習等の体験的学習を重視し、専門性を高め実践的応用力を伸ばす。
- ② 共通教科では、基礎的・基本的内容の定着を図り、大学進学に向けた学力の充実を図る。
- ③ 教科等横断的な学習を重視し、専門教科、共通教科間のつながりある指導を展開する。
- ④ 観点別学習状況の評価を行い、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かう態度を育成する。

（3）アドミッション・ポリシー

将来の科学技術分野で活躍できる若者の育成を目指すために、幅広い科学技術の基礎知識と素養を身に付けることを重視している。したがって、本校の学習、学校行事、部活動等に積極的に取り組み、大学進学等の希望する進路の実現や、将来の目標について自ら考え行動できる、次のような生徒の入学を期待する。

- ① 本校の教育目標と教育内容をよく理解し、入学を強く希望する生徒
- ② 理科系大学進学等、希望する進路の実現に向けて、日々の学習活動に意欲的に取り組む生徒
- ③ 科学技術に関して興味・関心を持ち、意欲的に取り組む生徒
- ④ 学校行事、生徒会活動、部活動等において積極的に取り組む生徒
- ⑤ 社会の一員としてのルールやマナーを身に付け、自他共に思いやる心をもつとともに、積極的にコミュニケーションを図る生徒

また、将来、国際社会で活躍する意欲を持つ生徒であること、中学校の学習活動又は部活動で優れた取り組みをし、入学後も継続的に活動できる生徒であることも期待する。

2 中期（令和8年度目途に達成する）目標

「先端科学技術のみならず広く自然科学への知的好奇心・探究心・学ぶ意欲に富む生徒」「将来の科学技術分野を担うスペシャリストを目指す、志あふれる生徒」「地球環境問題、技術者の倫理観など現代社会における科学技術と人間とのかかわりを学ぶ中で、幅広い教養と豊かな人間性を有する生徒」の育成するために、中期目標を次のとおり設定する。

（1）希望する理系大学進学を実現させる教育内容と指導の充実にに関する目標

- ① 国公立大学合格者 65 名以上（旧帝国大学・東京工業大学 5 名以上、東京農工大学 10 名以上、電気通信大学 10 名以上、都立大学 10 名以上、その他国公立大学 30 名以上）、早慶上理合格者 30 名以上、GMARCH 合格者 30 名以上
- ② 大学入学共通テストにおける国公立大学受験型（6 教科 8 科目）で受験する生徒の割合 80%以上
- ③ 大学入学共通テストにおける国公立大学受験型（6 教科 8 科目）での得点率が 80%以上の生徒の割合 5%以上、75%以上 80%未満の生徒数の割合 25%、70%以上 75%未満の生徒数の割合 40%、
- ④ 第 1 学年及び第 2 学年において、模擬試験（B 社）の 3 教科合計及び各教科それぞれの偏差値 60 以上の生徒の割合が 20%以上、55 以上 60 未満の生徒の割合が 40%以上
- ⑤ 外国語運用能力を図るため基準 CEF Rにおいて、第 1 学年 A 2 以上の生徒の割合 75%、第 2 学年 B 1 以上の生徒数 25%
- ⑥ 第 2 学年 2 学期までに第 1 志望大学を決定している生徒の割合が 90%以上

（2）科学技術への関心と基礎力を育成するための教育内容の充実にに関する目標

- ① 科学技術への好奇心や探究心及び創造力を育成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 80%以上
- ② 課題設定力や考察力を育成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 80%以上
- ③ 表現力を育成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 80%以上
- ④ 各分野の学会、全国レベルの研究発表会等における入賞件数 10 件以上、各種コンテスト等における上位入賞件数 5 件以上

（3）心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容の充実にに関する目標

- ① 相互に尊重し合う心を醸成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 80%以上
- ② 自己肯定感・帰属意識を育成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 80%以上
- ③ 社会貢献意識を育成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 80%以上
- ④ 権利や義務等を正しく理解し、社会人として適切な行動をとることができる人材を育成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 80%以上

3 令和6年度における取組目標とその達成に向けた具体的な方策

前記「2 中期（令和7年度目途に達成する）目標」、SSH指定校（基礎枠、重点枠）、進学指導推進校、英語教育研究推進校等のミッションの達成のために、今年度は以下の点について重点を置き、取り組んでいく。

（1）学習指導・進路指導の充実

① 進学実績に関する取組

取組目標：・国公立大学合格者 65 名以上、早慶上理合格者 30 名以上

- ・国公立大学受験型（6 教科 8 科目）で共通テストを受験する生徒の割合 75%以上
- ・国公立大学受験型（6 教科 8 科目）の得点率が 75%以上の生徒の割合 20%以上

具体的な方策：・放課後及び長期休業日における補講・講習を実施するとともに、サポートティーチャー、校内予備校を効果的に活用する。

- ・総合型及び学校推薦型の選抜に対応する選考会議の工夫及び指導体制の構築に取り組む。
- ・出願指導に向けた事前の個別検討会を実施する。
- ・共通テスト「情報Ⅰ」に向けた指導体制を構築する。

② 学力向上に関する取組

取組目標：・模擬試験でのそれぞれの教科における偏差値 55 以上の生徒の割合が 50%以上

- ・第1学年において C E F R：A 2 以上の生徒の割合 50%、第2学年において C E F R：B 1 以上の生徒数 10%
- ・基礎的な知識・技能（活用することができる知識・技能）の定着、思考力・判断力、表現力を育成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 75%以上
- ・科学技術への好奇心や探究心、創造力、課題設定力、考察力、表現力等を育成する教育活動が展開されていると実感している生徒の割合が 75%以上

具体的な方策：・生徒による授業評価を実施・分析、大学入試問題（5 大学以上）の分析及び教員相互の授業研究等することにより、主体的、対話的で深い学びとなる授業改善を行う体制を構築する。

- ・授業改善（教員）、学習方法の改善（生徒）ができる観点別学習状況の評価となるようにするために、校内研修会を実施して教員の観点別学習状況の評価に関する理解を深める。
- ・大学や企業と連携した講演会の実施や科学技術アドバイザー制度等を効果的に活用する。
- ・「分野等融合探究」「科学技術と人間」「概論」等の学校設定科目のカリキュラム開発及び実践する。
- ・各教科の授業において、プレゼンテーションの場面や論文を作成する場面を設定する。
- ・JET、オンライン英会話等を活用したスピーキング及びリスニング能力の向上を図る指導方法研究開発し、実践する。
- ・ライティング能力の向上を図るための指導方法の研究開発を行う。

③ 進路決定に関する取組

取組目標：・第2学年2学期までに第1志望大学を決定している生徒の割合が 75%以上

- ・第1学年3学期までに進学したい学部・学科を決定している生徒の割合が 75%以上

具体的な方策：・大学入試動向に関する研修会・講演会を実施する。

- ・研究室訪問の実施、オープンキャンパス等への参加の促進等をとおして、進路決定に向けた意識付けを行う。
- ・進路講演会や成功事例紹介等を活用する。
- ・進路希望調査、面談等を定期的の実施し、第1志望大学宣言を行う。

(3) 生活指導・保健活動、特別活動、部活動等の充実

① 相互に尊重し合う心の醸成、自己肯定感・帰属意識の育成に関する取組

取組目標：・HR活動や学校行事で活躍できたと実感する生徒の割合 75%以上、

- ・HR活動や学校行事で主体的に取り組むことができた実感する生徒の割合 75%以上

具体的な方策：・生徒一人一人の特性を捉えて、全生徒が活躍できる場面の設定を考えたホームルーム活動の指導方法に関する研修会を実施する。

- ・自主的で計画的なホームルーム活動、学校行事や部活動が展開できる指導体制を構築する。

② 社会貢献意識の向上、社会人としての責任感・使命感の育成に関する取組

取組目標：・ボランティア精神を育む学校行事が展開されていると実感している生徒の割合 75%

- ・主権者教育、消費者教育が計画的に実施されていると実感している生徒の割合 75%

具体的な方策：・科学リテラシー振興拠点として「科学の祭典 in 小金井」への参加、小・中学校と連携する校内体制を構築する。

- ・教科等と連携して、組織的・計画的に主権者教育、消費者教育等の講演会等を実施する。
- ・ボランティア活動や地域活動を推進する。

③ 生命及び人権尊重の精神を醸成する取組

取組目標：・交通安全に関して意識するようになったと実感する生徒の割合 90%

- ・学校が安心できる居場所であると実感する生徒の割合 75%以上
- ・相談しやすい環境であると実感している生徒の割合 75%以上

具体的な方策：・自転車乗車に関する法令やマナーに関する講演会を実施するとともに、ヘルメット着用の指導を徹底する。

- ・生徒のSOSをキャッチしやすい教育環境を確立する。
- ・スクールカウンセラーと担任の連携が行いやすい環境を整備する。
- ・いじめの未然防止及び早期発見の教員体制を構築する。

(4) 開かれた学校づくり・健全な学校運営

① 広報活動に関する取組

取組目標：・学校見学会及び説明会において、教育方針や教育内容等が理解できたと回答する中学生（保護者）の割合が85%以上

- ・推薦入試の倍率2.0倍以上、一次学力検査の倍率1.75倍以上

具体的な方策：・体験入学、体験入部、学校説明会（見学会）、授業公開等について、中学生とその保護者へ魅力が伝わるように運営を工夫する。

- ・学校行事（体育祭、文化祭、研究発表会等）を保護者、中学生、中学校の教員や地域等へ公開する。
- ・生徒、教員による中学校訪問を実施、及び中学校教員対象説明会、塾対象説明会へ参加する。
- ・ホームページ更新を促進する。

② 服務事故未然防止に関する取組

取組目標：・服務事故0件

具体的な方策：・服務事故防止に関する研修会及び自己チェックの実施回数3回以上実施する。

- ・机上の整理、整頓、保有個人情報管理基準に基づいた個人情報の管理を徹底する。

③ 働き方改革推進に向けた業務の効率化に関する取組

取組目標：・定時外在校時間80時間以上の教職員数0人

- ・効果的・効率的な予算執行（一般需用費のセンター契約集約率）60%以上

具体的な方策：・業務の継承とOJTを目的とした分掌内分担を実施する。

- ・効率的な業務遂行を工夫（ムダをなくす、整理整頓）する。
- ・業務のデジタル化を推進する。